

通級だより

静岡聴覚特別支援学校

通級指導教室

2025年 3月 No.10 文責 田辺



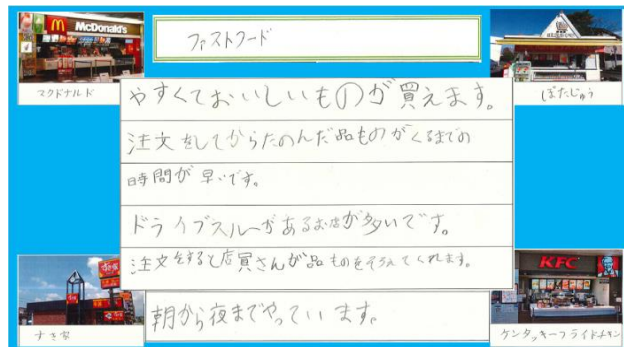
第3回通級生の集いでは、今年度の学習のまとめの発表会を行いました。今年度は、在籍校の先生方にも参加していただくことができ、盛大に開催することができました。ありがとうございました。

低学年は、「好きなこと」「得意なこと」「周囲の人に伝えたいこと」をテーマに作文を書いたりクイズを作成したりする活動に取り組んできました。そして、発表会当日は、「声の大きさ」や「話す速さ」など、聞く人が分かりやすい話し方を意識して発表することができました。発表の一部を紹介します。

クイズをだします。よくきいて、はなしに あう えを 一つえらんでください。
ホットケーキが 2まい あります。はちみつは、かかっていません。クリームがのっています。赤と むらさきの くだものが のっています。どちらでしょうか。



写真やイラストに合う適切な言葉を選んだり、繋げて文を作ったりすることで、様子に合った説明をすることができるようになってきました。



身近な事柄についてまとめたことを覚え、教師が読み上げた文章を正しく書き取ったり質問に答えたりすることができるようになりました。



ぼくは、ほちようきをつけてはしゃいでいます。スタートの「ドン」のあいすが耳できこえるのが、すこしおそくなるから、スタートがちょっとおくれてしまいます。
「ドン」のあいすと同時にはしりだすのをよくひょうにしています。

日常生活の様々な場面での出来事から、聞こえにくいことがあることを知り、聞こえにくい時の対応方法を考え、実践することができました。



ゴールまでの高さは、十メートルくらいあって、とても高いですが、登りきれると気持ちがよくて嬉しかったです。だから、つま先を使って、1・2でジャンプをするようにしたら、高いホールドにも手が届いたので、達成感があってうれしかったです。ボルダリングは、きん肉をたくさん使うので大変ですが、面白いスポーツなので、おすすめです。

感じたことや経験したことについて、内容を精選し簡潔にまとめながら、他者が分かりやすい文章で書くことができるようになってきました。

でんちを そのままにすると



① はかみ が での



② ふくらんで はれつする

③ あつくなって 火がでる

きけん!

補聴機器の扱い方を知り、学校生活で活用したり、経験したことを話したりしながら、場に応じた言葉の使い方を身につけることができました。



わたしは、ロジャーやほちようきのことをクラスの友だちや先生に 知ってほしいと思って 本をつくりました。

教師との対話を通して、様々な場面での聞こえにくさへの対応方法を知り、お願いしたいことを友達や担任に伝えることができました。

高学年は、「難聴者にとって便利な福祉機器」「難聴理解授業」「将来に向けて」などの学習を通して、自己理解を深めたり発信力を高めたりする学習に取り組んできました。今までの経験を振り返り、生活環境や状況に合わせて工夫したことや今後に向けて学びを深めたいこと、努力したいことなど、『難聴の友達に聞いてもらいたい!気持ちを共有したい!』という思いが溢れた発表でした。



まず、一つ目はスマートウォッチです。
スマートウォッチは、睡眠時間や歩数を計ってくれたり、いろいろな場面で使うことができます。特にアラームを振動で伝えてくれるので、耳が聞こえにくい人でも気づきやすいのがポイントです。ほくは、目覚まし時計としても使っています。



二つ目は「オンテナ」です。
これは送信機のボタンを押すと受信機(小さい方)が振動する機械です。
耳が聞こえにくい人などがリズムをとったり、遠くから聞こえにくい人に気づいてほしいときに振動で伝えたりするのに使えます。さらに、音を感知して震える機能もあります。ピンが付いているので、頭や服につけて音の振動を伝えることも出来ます。音が聞こえない人でもインターホンの音に気づいたり、声や音楽を振動で楽しんだりすることが出来ます。

聞き取りが難しい場面を振り返り、活用できる道具について調べたり実際に様々な福祉機器に触れたりして、今の自分にとって必要な道具を見つけることができました。

【鈴木啓太選手に質問しようと思った理由】
実際にプロサッカー選手として活躍されていた方から、プロサッカー選手になるために必要な力や身に付けておくと良いことなどを聞きたいと思ったから。



【今後頑張りたいこと】
これからは、相手が考えていることを聞き取ったり、チームメイトのことを考えて行動していきたいです。
そのために、日頃から相手の表情を見たり目と目を合わせて話したりしながら、相手の思いや考えを感じ取ることができるよう頑張ります。

生活を振り返ったり周囲の人達の考えを聞いたりしながら、補聴機器の使用方法について気持ちを整理したことで、苦手なことにも挑戦することができました。

自分で工夫することが必要

【榛原中学校】 【静岡聴覚特別支援学校】

- ・分からないままにしておくといけなくなる。
→分からないことは自分から聞いたり、自分で勉強したりすることが必要。
- ・難聴の人にとっては勉強しやすい環境が整っている。



榛原中学校

- ・大人数だから、騒がしいときもある。
→家での復習が大事になります!
- ・警視灯(何の時間か目で確認できるランプ)がないので時計を見るようにしている。
- ・大人数なのでたくさんの人と関わる事ができる。
- ・部活動の種類が多い(テニス部に入りました)



学校生活を振り返ったり聴覚特別支援学校と在籍校を比較したりすることで、それぞれの学校の良さに気づき自分にできる工夫を見つけることができました。

「難聴者の仕事について」

- ・難聴のせいで、「この仕事は自分に向いていない」と感じて、あきらめずに工夫をして、働きやすい環境を作ること大切だと思う。



「難聴者の仕事について」

- ・難聴者でも色々な工夫をすることで、できる仕事が増えると思う。
(同じ職場の人に、自分の聞こえについて理解してもらい、大きく分かりやすい声で話してもらったり、話している内容を文字にするアプリで、話の内容を目で見て分かるようにする など)




聞こえにくさを抱える人たちが仕事をする際、どのような場面で大変さがあるのかを考えたり詳しい人に質問したりして、工夫できることを知ることができました。

学校生活の中で聞き取りにくい場面
放送がたまに聞き取れないことがあります…
お昼の放送でみんなが知っておいた方がいいことを教えてくれると、とても助かります!
緊急時のアナウンスなど、簡単な言葉でもいいので教えてください!



難聴理解授業をやると、
たくさんの良いことがある!

～実際にあった良いことレポート～

- ①クラスの仲間に自分の聞こえのことを理解してもらえ
- ②クラスの仲間とたくさん話せるようになる
&クラスの仲間たちからの気まづい視線もなくなる
- ③いざ、自分が困ったときに助けてくれる
- ④みんな理解してくれているから自分が聞き取りやすいように話してくれる



状況や相手に応じた伝え方を考え、内容を精選したり具体的に示したりしながら、難聴理解授業を通して友達や先生方に自分の思いを伝えることができました。

Q 4月から新しい生活が始まります。補聴機器を使った方が、授業が分かりやすいと感じます。でも、クラスのみんなに伝えることには少し抵抗があります。どうしたら良いでしょうか。



A 補聴機器を使っても聞こえにくいことがあることや周囲の人達にどうしてほしいかを紙に書いて配るといいかもしれません。
また、最初はおもて仲のいい人や新しく仲良くなった人だけに話してみてもいいかもしれません。
色々な方法があるので、自分に合った方法を考えて伝えたいと思います。



通級指導教室で学び、実体験を通して有効であったと感じた様々な対応方法について、後輩達に伝えたいという思いをもち、分かりやすくまとめることができました。

令和6年度 通級指導教室文集について

通級指導で学習してきた作文やスライドを文集としてまとめます。通級指導教室を令和7年度も継続するご家庭には4月の指導の際に配布、卒業生及び退級生には3月中に郵送します。また、在籍校には、郵送または4月の通級指導教室説明会で配布させていただきます。ご承知おきください。

在籍校で子ども達が安心安全に生活するために…

情報交換会及び懇談会には、多くの保護者の方に参加していただきました。今回は、上級生の保護者を中心に、いままでの経験を生かした的確で具体的なお話をたくさん伺うことができました。御協力いただき、ありがとうございました。話題に挙がった内容の一部を紹介するので、参考にしてください。

【進学先（中学校）への働き掛け】

～方法～

- ・中学校に伝えておいてほしいことを保護者から小学校の担任及び特別支援教育コーディネーターに伝えておき、年度末に実施される学校間の引継ぎの中で話題に挙げてもらった。
- ・小学校の特別支援教育コーディネーターから中学校に面談の時間を設定していただきたいことを伝え、本人と保護者が中学校に出向き説明をした。

中学校に向けて

- ・一月の終わりに中学校に行き保健室の先生と面談をして、補聴器のことや授業のこと、ロジャーの使い方や自分の耳の聞こえのこと、テストの時にどうするかなどを話した。
- ・安心して学校生活を送るために自分の耳のことを伝えた。
- ・これから、ロジャーを先生に自分から毎回渡すのを頑張っていく。



進学に向けた取り組み（小学校6年生）

～内容（一例）～

- ・補聴機器の基本的な使い方や場面に応じた使用方法について、資料を渡したり実際に機器を見せたりしながら説明をした。
- ・聴力や教師の話の聞き取り方、指示理解の仕方の特性などに適した座席配置について伝えた。
- ・普段使わないような言葉や新出学習用語などの聞き慣れない言葉は、ゆっくり話していただいたり板書をしてもらったりすると分かりやすいことを伝えた。

【学習場面（主に体育や英語のリスニング、音楽等）の環境設定】

～方法～

- ①事前に本人、保護者、通級担当で本人に合った環境について話し合った。
- ②話し合ったことを基に、本人から担任及び教科担当に相談・依頼に行った。
- ③事後に本人、保護者、通級担当で環境が適切であったのかを確認し、継続または別の方法に変更するのかを検討した。

～内容（一例）～

- ・リスニングのテストを実施する際、ロジャーの使用（スピーカーの前にロジャーを置く、スピーカーにロジャーを接続するなど）や別室での受験をお願いした。
- ・柔道の授業が始まる前に、実施「時期」「内容」について確認し、人工内耳が外れないようにすることや周囲の人達に注意してもらうためにヘアバンドを使うこと、対人技を実施する場合には柔道経験者とできたらありがたいことなどを伝えた。

《スピーカーの前にロジャーを置く方法》



【感想】
少し雑音があったけど聞こえやすかった。

《スピーカーにロジャーを接続する方法》



【感想】
周りの音が入らなくて、集中して聞き取れた。

Q 体育で「柔道」の授業があります。みんなと同じように授業を受けたいと考えていますが、気を付けた方がいいことはありますか。



A まず、頭に強い衝撃が当たると、頭の中のインプラントが壊れてしまうかもしれないので、受け身の技術をしっかり身に付けた方がいいと思います。
あとは、人工内耳が取れて、踏まれても壊れてしまうので、取れないようにイヤーマールドをつけて行ってもいいと思います。

英語のリスニングでの取り組み（中学校1年生）

体育での取り組み（中学校1年生）